

# 平成 23 年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員 —組織マネジメント研究会報告—

機能材料系 西川 敏治

出張期間：平成 23 年 8 月 31 日～9 月 2 日

出張先：広島大学（東広島市）

## 1. はじめに

本研究会は、全国の大学等における先進的技術組織の運用事例や、事務あるいは図書館組織などの他業務領域における大学職員の研究事例を通して、技術職員の在り方を探求するものであり、大学あるいは部局運営の視野に立った業務の効率化や計画的な人材育成と技術支援体制の強化に資することを目的としている。

今回は、国立大学法人 8 校から 18 名、国立高等専門学校 9 校から 11 名の参加があった。

## 2. 報告事項

広島大学理事・副学長の土屋 英子 氏の開会挨拶があり、一日目に以下の 5 氏の講演があり、二日目はパネルディスカッションが行なわれた。

### 2.1 講演（9 月 1 日）

講演 1 「研究所から見える大学技術職員」 核融合科学研究所技術部長 飯間 理史 氏

飯間さんは、日本の公的技術職員の中で唯一「技術部長」の職名を持ち、核融合科学研究所の技術職員を統括する立場に有り、大型ヘリカル装置の製作と運転についても重要な仕事を担当している。部下の才能を見つけることも仕事の重要な部分であるというお話であった。研究所と大学の技術職員は異なる職場環境ではあるが、研究・運営費用の金額の大きさに驚かされる内容であった。

講演 2 「大学職員の専門職化の動向と課題」 愛媛大学教育企画室副室長 秦 敬治 氏

講師の秦先生は、西南大学の事務職員を 20 年経験後、SD を専門とする教員として愛媛大学に採用された。今の技術職員は理工系の知識だけでは社会において役立たない。これからの大学職員はルーチンをこなす作業屋ではなく、仕事を改善することを考えるように進化しなくてはならないという内容であった。

講演 3 「大学技術職員が目指すべき専門技術レベル」 名古屋大学全学技術センター 河合 利秀 氏

工業高校卒の河合さんは、装置開発技術系の首席技師として天体望遠鏡や観測機器の製作に多くの業績を残してきた。大学での技術業務は常に汎用性と技術革新が同居しているが、技術職員は技術革新を担うことで技術の専門性を獲得することができる。

講演 4 「専門職としての大学図書職員の人材育成」 広島大学図書館副図書館長 甲斐 重武 氏

図書館職員の採用試験については、以前から図書専門職員採用試験が行なわれてきた。平成 18 年度から中国・四国地区において図書・学術情報系専門員資格認定制度が実施されているが、専門職としての大学図書館職員の人材育成が必要となっている。大学技術職員の専門性の確保と通じる面がある。

講演 5 「組織マネジメントから考える技術職員」 広島大学技術センター技術統括 勇木 義則 氏

広島大学では、平成 16 年 4 月から全学的な人員管理方針が採られることとなり、組織マネジメントを行なうことが必要となった。求められる技術職員像を実現するためには、教育・研究に関わる技術的支援を行なう中で専門技術を磨き、自己アピールができて国際的な視野を持った技術者となるよう努力していかなければならない。

### 2.2 パネルディスカッション（9 月 2 日）

愛媛大学の秦さんを座長として、昨日の講師であった河合さん、勇木さんに加え呉工業高専技術長の佐々

木さん，津山工業高専技術長の中尾さん及び鳥取大学医学部技術長の板木さんの 6 氏をパネラーとして以下のような項目についてディスカッションが行なわれた。

- ・技術職員はどうやってモチベーションを保っていけば良いのか
- ・教員との関係をどうするか
- ・自分のことを評価してもらいたいと思った場合，どうすれば良いのか。
- ・若手の育成及びマネジメント担当者の育成について。

この期間に，大型で進行速度が遅い台風 12 号が近づいた為，空模様と帰りの交通機関を心配しながらの研究会であった。